

今週も、“すず辰(すずたっ)”が厳選しました農家さんの野菜(果物)たちをお買い上げいただきありがとうございます。ぜひおいしいもの好きなお友達・お知り合いにもお声かけください。お客様の輪が八百屋の力になります。

## ●今週のピックアップ商品○(来週もあります。)

### 夏限定の“青大豆おぼろとうふ”、今月いっぱいです。

すず辰の目玉商品、京都は長岡京市の“あらいずきっちゃん”さんの『京とうふ』。とうふの旨みが素直に引き出され、八百屋ながら、とうふ目当てのお客さんも多数。

そのとうふの中で、夏場限定発売の“青大豆おぼろとうふ”。青大豆は成熟しても青みがかかった大豆の品種で、通常の大豆より甘みが強く、暑い時期にすっきりとした甘さで人気のおぼろとうふです。

8月いっぱい終了ですのでまだの方はお早目に。火・木・土の入荷です。

### 肉厚ピーマンうまし、です。

おいしい肉厚ピーマンが、岩見沢のビオファームなかむらさんから来たので、ざっと塩炒め。

肉厚で瑞々しく、スッキリとした香りとほのかな甘み、ピーマンのイメージが変わります。

このピーマンなら、苦手な子も行けるかも、です。

香りが良すぎて逆にダメでしょうか？

でもおいしいんです。主役になれるピーマンです。



### ▲すず辰のこぼれ話▽ 次の京とうふは8/20、22、24、27、29です。

#### お盆離ればなれだった子どもらは。

お盆4泊5日のドライブ旅行に母と旅経った子どもら。3日目、長男(9)から電話。「学童から上靴持ってきて」。前日長女から言われて取りに行ったばかり。。。 (そういうことはまとめて言います)。

最終日、店から帰宅すると玄関に出てきたのは長女(12)だけで、息子2人はあっさりしたもので。逆に「丸つけしといて！」と言われていた次男(7)の問題集のことを忘れていて怒られる。。。 (問題集の丸つけ結構大変です。長男のはやりました)

夜寝る段になり、「今日はひさしぶりだから父といっしょにねるっさー」と寝室まで来る次男。(ちよっとうれしい父でした)

NHKスペシャル「戦争と“幻のオリンピック” アスリート 知らせざる闘い」というドキュメント番組内で、国が戦争に向う中、「スポーツは国家のためになるものでなければ」という文部省官僚の発言があったらしい。(私は途中で離席したので、番組を最後まで見た女房からの伝聞です)

これを見て、「研究を取り巻く状況が今、なぜ同じようなことになってるのかなあ」ってのが女房の感想。研究の世界は独立行政法人になって以来、年々国からの予算が削られ、結果、女房は先日、羅臼でのシャチ調査継続のためクラウドファンディングなることにチャレンジしたわけです。(ついでに、効率よく成果が出る研究だけが推進されるとか)

ノーベル賞受賞した日本人研究者の方が、研究への予算配分をもっと増やしてほしい、といったことを訴えていたりしますが、研究なんて最初からためになると思うことをやって成果が出るというものでもなく。研究者が自然界にある事柄で、これおもしろいと思った、他の人が見向きもしない事柄を掘り下げた結果だったり。本当にいろいろ試行錯誤した末のたまたまの産物が大きな結果になるってことが多く、如何に「それなんか社会の役に立つの？」という質問に負けず、無駄と思えることをたくさんやれるかどうかが大事だったりします。

ある意味、多様ないろんな研究者の知的好奇心を、「役に立つかどうか」なんて気にせずどれだけ自由にやらせるだけの度量が、余裕が国にあるかどうかで、そういう意味では「日本社会に多様性を許容するだけの器がなくなってきている」のかもしれない。(単にお金の余裕がないとも言えますが・・・)

先日、愛知県主催の芸術祭(あいちトリエンテナーレ)内の「表現の不自由展」が開催中止となった件も、名古屋市長や菅官房長官から、「(公的資金を元に行った)芸術祭では不敵な内容でないか」といった指摘が出た点も、「あるべき」が強要され、良くも悪くも議論となるような表現が制限されていってしまう社会の息苦しさを感じます。

日本社会全体の器が試されているのかなあ、と思う今日この頃です。

すず辰マガジンがウェブで読めるようになりました↓



#### 《すず辰について》

鈴木辰徳(辰年:43歳。12.9.7歳の3児の父)がH23に開業。「野菜で笑顔を結ぶ」をモットーに、作る人と食べる人の笑顔の架け橋となるべく、素敵な農家さん、野菜果物のおいしさ楽しさをご提案。路面での販売“マルシェすず辰”を経て、H25/3/25念願の店舗オープン! マンガ“八百森のエリー”絶賛応援中!

函館市本通1-24-3(店舗) 店前・店横駐車可。  
平日11時半・土曜12時半開店 17時閉店(日祝日休み)  
TEL/FAX:0138-76-9865 メール: [suzutatsu831@ncv.jp](mailto:suzutatsu831@ncv.jp)  
HP: <http://suzutatsu831.com/>

「器を試される」って言えば、2つあるのかもです。

一つは、人口が減少し、寿命が延び、高齢者の方の割合が増える中、先への投資を渋っていく中で、「お金がない」という一点で余裕がなくなっている点。その上で、どう配分するかという視点から、どうも国(社会)にとって役に立つもの、良いとされるものが優遇されるという、多様性とは程遠い思考が幅を利かせてしまっている点。真逆の意見、価値観もそれはそれとして受け止める度量・器がやっぱり豊かな社会には大事な気がします。大変ですが。

## ◆こども食堂をやっていること。◇ (2019/8/13)

こども食堂をやってみて、なんかこれって政治や社会と似てるのかもなぁと思うことがあります。想いだけで金も人手も場所もなかった私が、「こども食堂やります！」って地元の新聞コラムで書いたら。人・もの・金が集まってきて、予想以上にできるようになりました。

その時の集まり方が、金があるけど暇がない人は金を出し(毎月振り込んでくれる方もいます！)、金が大してないけど時間は作れる！、って人がスタッフとして参加し、物は出すよーって人(農家さん・肉屋さん・魚屋さん・米屋さん、味噌屋さんなど)は物を出し。それぞれができることを提供しあって、協力し合っています。

で、参加する子どもや保護者も。子ども100円、保護者500円(今年度より300円)の参加費を出し、その場を楽しむ。(万が一、お金が厳しい子が来た場合はタダにしようと思っています)すず辰店頭で募金してくれるお客さんも多く(月1万弱)、有難い限りです。

寄付金や食材で、結果運転資金は溜まっていて、ちゃんと子どもたちのために使わないとなどつねづね思います。ある意味、寄付金や会費で集まったお金は「税金」みたいなやなぁとも思ったり。皆が幸せになるために集まったお金で、そのために如何に有効に使えるかが問われています。

毎月の活動で、いろんなことが起り、スタッフで話し合いをするわけですが、人それぞれ考え方に違いもあり、見てきたこと、経験値、取り組みへの考え方等々。リーダーは器を試されるなぁ、と高々ボランティア活動で沁みているこの3年ちよいです。

違いはあれど、その思いをちゃんと汲み取って、それぞれの思いをまとめてみると、予想以上の力になり、それが子どもたちのためになる。

「こども食堂やります！」と希望を社会に投げかけてみれば、あれよあれよといろんな方の協力で続いている現状を想い、いろんな課題が山積みの日本も、旗の振りようでどうとでもなりますし。その旗のもと、いろんな人が協力し合えばめっちゃいろいろのことができる！、ってのは実感ではあります。

というわけで、政治には期待しちゃうのです。

## ◆「わたしと小鳥と鈴と」◇ (2014/10/14)

山口は下関での小学生時代、「好きな詩」を選んでくるという課題がありました。そこで、私が選んだ詩。「金子みすゞ」の「わたしと小鳥と鈴と」。

わたしが両手をひろげても、お空はちっともとどべないが、  
とべる小鳥はわたしのように、地面(じべた)をはやくは走れない。  
わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、  
あの鳴る鈴はわたしのように、たくさんの唄は知らないよ。  
すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。

小4か5の時だと思いますが、同級生の女の子に軽くからかわれた記憶も(笑)。今あらためてこの詩を思い出します。

最近、農家さんの話をする中で「森の生態系」の話をする。落ち葉が地面に落ち、虫がその葉を食み、さらに微生物が分解して、土の一部になります。多様な生物がいることで全体としてバランスを取り、一部の生物が増えても、天敵などの作用で時間が経つと元のバランスのとれた数に収まります。

一方の畑は栽培する作物のみを茂らせます。結果、虫や病気が発生すると広がりやすくなっています。生産の効率を追った結果、生態系としてはかなり脆弱な貧相な体をなしています。なんとなく今の社会を思い起させます。

いろんな人がそれぞれの役割を演じつつ、多様な幸せが共存できる社会であればと思う今日この頃です。

昨今、「スピードが速いこと、お金を稼げること、効率が良いこと」がもてはやされがちですが、「ゆっくり行くこと、お金もいけど心の幸せを重視すること、効率が悪くてもひとつひとつの日々の出来事を味わうこと」を大事にしたいのかなぁと思ったり。というか、何を大事にするかは社会が決めるのではなく、個人個人が決めればよい訳で。その点、貧相な社会になってはしまいかと本当に心配になります。

わが娘は「虫がきらい」といいますが、カヤクモ、ハチが虫がない世界はいろいろ問題が出るもので。(実際虫は減ってきているという研究も)

多様である幸せ、強さを毎度ながら思う店主なのです。

